

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	笑顔と思いやり、意欲あふれる永久津っ子の育成 ～ 学校・家庭・地域が一体となって149年の絆をつなぐ ～
--------------	---

知育	【目標】学力向上の推進(子どもの将来を見据えて今の学びを考える)				
	◎ 児童主体の「楽しく」「分かる」「できる」授業をめざし、これからの社会の変容を意識し、児童の将来を見据え責任をもった学習指導を展開することによって、確かな学力の育成を図る。				
目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組 【学びたい度 90% (R3 70%)】	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 「わかる・できる」まで見届ける指導	肯定的評価 80%以上 CRT 正答率 80%以上 単元テスト年間平均 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力テスト分析を行い、求められる学力を明確にする。どのような授業を行えば達成できるのかを明確にする。 ・日々の授業改善及び授業力向上を図る計画的な研修を行っていく。(年間14回) 	3	3	○ 各項目、肯定的評価が80%以上で目標は達成しているものの、20%近い別の評価があることを認識して支援、指導の在り方の検討をお願いします。 ○ タブレットPCの活用により更に学習面が深掘りされたと思う。今後も個々の児童・生徒の理解度に応じた支援に取り組んでほしい。
2 個に応じた指導の充実	肯定的評価 80%以上 CRT	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修(主題研)で、昨年度のCRT学力調査結果を分析し各学年の実態を明らかにする。 ・個に応じた指導の工夫を図る研究を行い、実践を通して、課題に応じた研究内容を決める。 	3		
3 学習への積極性を高める。	肯定的評価 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研究会・事後研究会を実施し、研究授業から児童の学習への積極性を高める手立てを共通理解し、実践を重ねる。 	3		
4 将来を見据えた学びの目的を意識した学習指導を行う。	肯定的評価 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研究会・事後研究会を実施し、単元を通じた授業づくりを全職員で行うことで、単元のねらいから日々の授業づくりを行うようにする。 	3		
5 職員相互の認め合いと学び合い	1人1回以上の研究授業の実施 小中で相互参観3回	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1回以上の研究授業を行う。必ず事前研究会と事後研究会を実施する。 	4		
6 立腰指導徹底と基本的学習習慣の定着	肯定的評価 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の中で立腰指導を繰り返し、基本的な学習習慣を定着させる。 	3		
7 タブレットPCの効果的な活用による学力の向上	肯定的評価 80%以上 月2回以上のICT研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT サポーターが来校される日に合わせて、ICTに特化した校内自主研修会を実施する。 	3		

德育	【目標】豊かな心の教育推進(生徒指導 3 機能生かした認める指導と体験活動の充実)				
	◎ 基本的な生活習慣の定着と道徳や体験活動の推進による、豊かな感性と思いやりの心の醸成。				
目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組 【学びたい度 90% (R3 70%)】	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 基本的な生活習慣の意義を考えさせる指導と定着の推進 あいさつ・廊下歩行・清掃	決まりやルールへの厳守 自己評価 100% すすんであいさつ 自己評価 90%	・あいさつ指導 登校指導 集団登校 集団下校 雨の日の過ごし方の指導(全校集会での話) 縦割り清掃 清掃指導	3	3.4	○ 挨拶については、こちらから言わないとできない感じです。登校については、私の見る限りでは、よくできています。 ○ 読書量や新聞投稿など素晴らしい結果が出ており、子ども達も日記や作文を書くときの励みになっている。 ○ 少人数クラスのため、いじめなどないと思うが何気ない言動が相手に不快感を与えていることなど、今後子ども達に気付いてほしい。
2 いじめ・不登校の根絶	全員登校100日以上 いじめ0% いじめ早期発見率 100%	・生活に関するアンケート、教育相談及び・I F委員会をもとにした職員間の共通理解・連携 ・縦割り活動の充実(縦割り清掃・委員会活動・昼休みの活動を通してのふれあい)	3		
3 道徳教育の充実	命を大切にする授業実施率100% 学校が楽しいアンケート80%	・道徳の授業の充実 ・栽培活動の充実(学級園・一人二鉢運動) ・全校放送での誕生日児童の紹介 ・ハッピーレター活動(友達の良いところ紹介)	3		
4 読書の推進の充実	年間一人100冊以上の読書量	・図書支援員と連携し、委員会活動での呼びかけを行う。	3		
5 社会に関心をもたせる新聞活用の充実	新聞投稿年間100本以上	・放送での新聞・地域のニュースの紹介 ・学校長による新聞投稿の協力 ・新聞掲載者の紹介	2		
6 体験活動の推進	学校ボランティア活用年間100人以上	・外部講師の積極的活用(読み聞かせボランティアなど) ・体験活動への積極的参加(米作り・そばうち・小林観光地巡り・市議会見学など)	3		

<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 24px; margin-right: 10px;">体育</div> <div> <p>【目標】 健やかな身体の育成(生きる力の元となる健康・体力を意識して)</p> <p>◎ 体力向上プランを意識した基礎体力の向上と安全で健康的な生活習慣の定着を図る。</p> </div> </div>		自己評価		結果の考察・分析および改善策	
		取組別	総合		
目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組 【学びたい度 90% (R3 70%)】			
1 新しい生活様式の徹底(マスク・手洗い・手指消毒・密の回避)	朝の家庭からの体温入力100% 新しい生活様式に関する児童の自己評価80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の家庭での検温、場に応じたマスクの着脱の指導を行う。 マスクや検温を忘れた児童には、その都度指導する。 保健便りによる啓発を行う。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい生活様式が徹底されているようです。むず歯治療率が目標に達していませんが、家庭でのチェックと、家庭内での治療に行ける環境づくりが必要だと思います。 ○ コロナ禍により、子ども達は検温、マスクなど負荷がかかっているが順応できている。 ○ フッ化物洗口は、優先的に行ってほしい。
2 体力・運動能力の向上	体力テスト分析による改善方法の策定と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 陥没種目の3%向上 ・ 体育授業に関する教師の自己評価80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力テストの結果、特に上体起こし、長座体前屈、反復横跳びについては、全国平均を下回っている学年が多いことが明らかになった。(R4結果より) 陥没種目については、体育の授業や体力向上週間を活用して、向上を図る。(3%アップ) 陥没種目については1月に再度測定をし、変容をみる。 ・ 研究授業など他の学年の授業を見る機会を増やして、体育科の授業力の向上を図る。 	3		
3 外遊びの奨励と自力登校の推進	外遊びをしている児童80%以上 自力登校100%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間等に運動に親しむことができるような環境を整える。 ・ 自力登校を通して体力向上を図る。 	3		
4 むし歯治療率の向上	養護教諭による歯磨き指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ フッ化物洗口実践 ・ むし歯治療率85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年へ歯みがき指導、未治療者への受診勧告の発行、保健便りによる啓発を行う。 ・ フッ化物洗口を確実にを行う。 	2		
5 欠席0の日の実現	欠席0の日 100日以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席した場合は、欠席理由の把握と家庭への連絡を確実にを行い、欠席が続かないように支援する。 	4		

食育	【目標】望ましい食習慣の育成(食は生きる源)				
	◎ 様々な経験を通じて「食」に関する関心を高め、健全な食生活を実現することができる基礎を育てる。				
目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組 【学びたい度 90% (R3 70%)】	自己評価		結果の考察・分析および改善策
			取組別	総合	
1 食育指導の充実	農業体験や食育の日と関連した家庭科授業の実施 ・学校支援ボランティアとの連動(芋・米など) ・給食に関する児童の自己評価80%以上 養護教諭による食育指導(全学年で) ・食育週間(弁当作り)2回、チャレンジクッキング2回実施	・伝統的な食文化を体験する活動の実施(米作り、そば打ち、いも掘り) ・委員会活動を通して残食を減らす取り組みを行う。 ・給食時間に食材のクイズや豆知識を放送し、興味をもたせる。 ・ホームページを活用し、毎日の給食や食育週間の紹介を通じて情報発信を行う。 ・チャレンジクッキングは、提出された物を掲示することで、児童同士でお互いを認め合い、意欲を高める。	4	3.2	○ 給食については、以前から残食率も少ないと報告を受けています。地域との食育も伝統的に実施しできていると思います。 ○ 給食の残滓も少なく苦手な物も学校では頑張っ て食べていると聞く。 ○ アレルギー症状のある子どもも増えており、研修などを開催され、よく対応されている。
2 食物アレルギーへの対応	アレルギーに対する対応の職員の自己評価80%以上 食物アレルギーに関する職員研修の実施(年1回)	・複数の目で確認する。(除去食個別対応票の活用) ・食物アレルギーに関する職員研修を行うことで、アレルギーに関する共通理解を図る。	4		
その他					○ 学校内では、あいさつがよくできている。 ○ 放課後子ども教室の状況を運営委員会で報告していただけないでしょうか。地域の方々が関わってくださっていると思いますが、人数、時間、課題等があればよろしくお願いします。 ○ 学校と地域の連携した活動に積極的に取り組まれ感謝しています。 ○ 少子高齢化の進むこの地域で学校と連携は欠かせないもので有り、意思疎通が図られています。また、子ども達に対する思いやりの気持ちが多方面に見られ有り難しく思います。

次年度の方向性についての校長所見	<p>学校の方針としていた内容について、児童・保護者・職員によるアンケートの結果、「よくできている」「できている」と評価した項目は、17項目中13が8割を超えていた。しかし、「立腰」「鉛筆の持ち方」「読書」「外遊び」「むし歯の治療」に関しては、達成率が8割を下回り、今後力を入れていくべき内容となった。また、アンケート結果はよかったものの、学習面で配慮を要する児童への支援や家庭学習の在り方やあいさつ等工夫していく必要がある。</p> <p>今後、CRT結果と2回目の体力テスト結果で、本年度の成果を確認分析し次年度につないでいきたい。</p>
------------------	--

